

令和5年度 学校自己評価計画の中間報告

石川県立金沢西高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度 判断基準	中間評価等	備考
1 GIGAスクール構想の実現に向け、ICTの効果的な活用を通じ、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に努め、生徒の主体的な学びおよび確かな学力の育成を図り、進路実現につなげる。	① 研究授業、相互参観授業を通して授業改善を図り、探究的な学習活動や質の高いグループ活動を取り入れた授業を実施する。	教務課	授業において生徒がChrome bookを利用できる頻度は増え、生徒による後期授業評価アンケートの「効果的なICTの活用など工夫された授業が行われている」の項目でA評価は約52%であった。さらに効果的なChrome bookの活用を各教科で研究し、授業改善を図る必要がある。	【努力指標】 これまで以上に全教員がICTを活用した授業を実施し、研究授業や相互参観授業に取り組み、授業評価におけるA評価を60%以上にする。	「効果的なICTの活用など工夫された授業が行われている」の項目においてA評価が A 65%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	生徒による前期授業評価アンケートで A評価 53% -評価【C】	C、Dの場合、指導方法を分析し、方策を検討する。
			生徒による後期授業評価アンケートの「授業を通じて学力がついてきている」の項目で肯定的評価は84%であった。主体的・対話的で深い学びを追究し、生徒の自己肯定感を高め、確かな学力の育成を図りたい。	【努力指標】 学力がついてきているという肯定的評価が高まり、成績に反映するようにこれまで以上に、質の高いグループ活動及び探究的な学習活動を実施する。	「授業を通じて学力がついてきている」という肯定的評価が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満	生徒による前期授業評価アンケートで 肯定的評価 85% -評価【A】	C、Dの場合、指導方法を分析し方策を検討する。
	② 「総合的な探究の時間(西高プロジェクト)」の活動を通して、主体的・探究的・協働的に学び活動する態度を養う。	進路指導課	昨年度は1,2年合わせて約93%と高評価であったが、「主体的」・「探究的」・「協働的」な取組のうち、今年度は「探究的」態度をさらに伸ばしたい。	【満足度指標】 生徒がプロジェクトに対して年間を通じて主体的・探究的・協働的に取り組むことができたと感じている。	生徒アンケートで「主体的・探究的・協働的に取り組んだ」とする肯定的評価が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	年度末の振り返りの時間にアンケートを実施して評価	C、Dの場合、指導方法を分析し、方策を検討する。
	③ 家庭学習時間量調査を実施して現状を把握・分析し、指導することで進路実現に向けた学習時間の確保を促す。	教務課	生徒による学習時間量調査の結果によると、目標を達成している生徒の割合は11月調査で35.2%であった。すべての学年で改善のための方策を検討していく必要がある。	【成果指標】 目標とする家庭学習時間を「学年+1時間」に設定し、達成する生徒の割合を40%以上にする。	家庭学習時間が「学年+1時間」に達している生徒の割合が A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満	1学期の家庭学習時間調査 (4~7月平均) -評価【B】 1年 45.0% 2年 28.2% 3年 17.7% 全体 31.6%	C、Dの場合、指導方法を分析し方策を検討する。
	④ 校外模試のデータを教科と学年が連携をとって分析し、方策を検討することで、学力向上に結び付ける	進路指導課 1・2学年 進路指導課 3学年	昨年度1月の校外模試で3教科型偏差値52以上の生徒の受験者全体に対する割合は、1年は26.3%、2年は33.9%であった。	【成果指標】 1,2年1月の校外模試で3教科型偏差値52以上の生徒の受験者全体に対する割合が、40%以上を目指す。	1,2年1月の校外模試3教科型偏差値52以上の生徒の受験者全体に対する割合が A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満 ※1・2年別に達成度を判断する	当該模試の結果で評価	当C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。
昨年度3年は10月校外記述模試で平均偏差値50以上の生徒が25.1%、11月共通テスト模試で総合偏差値52以上の生徒の受験者全体に対する割合が、それぞれ、20.9%であった。			【成果指標】 3年10月校外記述模試で平均偏差値50以上の生徒、11月共通テスト模試で総合偏差値52以上の生徒の受験者全体に対する割合が、それぞれ、30%以上を目指す。	10月の校外記述模試及び、11月の共通テスト模試総合偏差値平均偏差値50以上の生徒の受験者全体に対する割合が A 30%以上 B 25%以上 C 15%以上 D 15%未満 11月の共通テスト模試総合偏差値平均偏差値52以上の生徒の受験者全体に対する割合が A 30%以上 B 25%以上 C 15%以上 D 15%未満			
⑤ 進路学習・探究活動を充実させることで、高い進路目標を持たせ、最後まで目標実現のため努力を継続させる指導を行う。	進路指導課	昨年度の合格者数は①金沢大学13名、②北信越地区国立大学32名、③北信越地区公立大学35名であった。	【成果指標】 右の①～③の評価項目をすべてクリアすることを目指す。	①難関国立大学、金沢大学に10名以上合格 ②北信越地区の国立大学に40名以上合格 ③北信越地区の公立大学に50名以上合格 A 3項目クリア B 2項目クリア C 1項目クリア D クリアなし	年度末の実績で評価	C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	
2 新型コロナウイルス感染対策の実施の要否の判断を的確に行ったうえで、組織的な教育活動を通して、生徒の規範意識を高め、将来の主権者としての自覚を促し、自立した社会人たる判断力・行動力を養う。	① 挨拶運動を通して生徒会執行部と協力し合い、学校全体の活性化を図る。自ら発する伝わる挨拶を実践し、社会人として必要なコミュニケーション能力を養う。	生徒課	昨年度は、生徒アンケート結果から83%の生徒が積極的に挨拶を行ったと自己評価していたが、一昨年度よりその割合は減少した。集会等を通して、挨拶の励行を呼びかける必要がある。	【成果指標】 学期ごとに行う生徒アンケートで、すべての学期で90%以上生徒達が挨拶を実行できていると評価できた場合、目標達成とする。	生徒アンケートから、「いろいろな人に自ら発して伝わる挨拶ができた」が、 A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	生徒による前期学校評価アンケートで 肯定的評価 86% -評価【C】	C、Dの場合、指導方法を分析し、方策を検討する。
			② 様々な交通安全指導から、自転車乗車マナーの向上を意識し、交通社会の一員としてルールの遵守、安全への配慮等、事故防止に向けた注意力、判断力を身に付けさせる。	生徒課	昨年度累計で、自転車乗車違反件数が71件と多かったが、交通事故件数は7件と一昨年度を下回り、安全運転への規範意識は高まっているようだ。今年度も継続して自転車乗車のルールやマナーを徹底させていきたい。	【成果指標】 年度末の自転車乗車違反件数累計において、今年度も違反件数一桁を目指すとともに、最低10件以下で目標達成とする。	自転車乗車違反件数が、年度末累計で、 A 10件未満 B 20件以下 C 30件以下 D 31件以上

		③	いじめは絶対に許されない行為であることを周知し、他者の心情を配慮できる思いやりの心を醸成する。また、未然防止に取り組みながら、居心地の良い学校づくりに努めていく。	生徒課	昨年度、いじめ案件について認知することはなかった。生徒アンケートの「互いに尊重し合える居心地の良い学校であるか」の問いかけには91%の生徒が「はい」という回答であった。	【成果指標】 左記の生徒アンケート結果において90%以上の生徒達が居心地の良い学校であると回答すれば、達成とする。	「互いを尊重できる居心地の良い学校であるか」のアンケートから、肯定的評価が、 A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	生徒による前期学校評価アンケートで肯定的評価 92% →評価【B】	C、Dの場合、評価結果を分析し、指導の在り方や方策を検討する。
		④	自己管理能力を高めるために、自らの健康問題にしっかりと向き合う態度を養う。	保健相談課 各学年	健康診断の結果、歯科受診率がかなり向上した。歯科受診率は一昨年度から向上しており、昨年度は73.1%であった。健康課題に関する意識向上が見られる。	健康診断後の事後措置を、さらに徹底するとともに、生徒の健康課題意識を向上させ、個別指導等で受診率の向上を図る。歯科受診率を前年度以上とする。	歯科の受診率が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	年度末の実績で評価	C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。
3	文武両道の実践のもと、部活動の効率的な活動と更なる活性化を図り、心身の錬磨を通して、人間力を高めチャレンジ精神を培う。	①	運動部・文化部の活動環境の支援及び改善を図りながら活動内容を充実させる。	生徒課	昨年度、後期生徒アンケートで、「充実感や達成感を感じられる部活動を行っている」と答えた生徒は、88%であった。3年間の継続を目標に、限られた時間を有効に使い、生徒が達成感を感じられるような活動にする。	【満足度指標】 部活動加入者に対するアンケートの満足度を80%以上にする。	「充実感や達成感を感じられる部活動が行えているか」の肯定的評価が A 85%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	生徒による前期学校評価アンケートで肯定的評価 91% →評価【A】	C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。
		②	運動部・文化部ともに計画的かつ効率のよい練習を行い、好成績につなげる。	生徒課	昨年度の県高校総体総合成績は、男子は25位、女子は24位であった。成績ダウンを受け、各部に対して必要な支援や環境面での改善等を図りたい。文化部においては、棋道部の全国大会出場など目覚ましいものが見られた。	【成果指標】 (運動部) 県高校総体総合成績の順位によって評価する。女子は10位以内、男子は15位以内を目標とする。 (文化部) 各種大会・コンクールにおける年間の獲得賞状枚数によって評価する。	(運動部) 県高校総体総合成績が A 10位以内 B 20位以内 C 30位以内 D 31位以下 (文化部) 各種大会・コンクールにおける年間の獲得賞状枚数が A 30枚以上 B 20枚以上 C 10枚以上 D 10枚未満	年度末の実績で評価	C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。
4	ボランティア等の諸活動や情報の発信を通して、保護者、地域との連携を密にし、信頼される学校づくりを行う。	①	学校教育活動について、ホームページやメール配信、学年通信等による積極的な配信に努め、保護者や地域の方の一層の理解・協力を得る。	教務課 総務課 各学年	保護者による学校評価アンケートの結果によると、肯定的評価は95%であった。	【満足度指標】 学校の情報提供による満足度を95%以上にする。	「学校の情報提供は十分に行われている」という保護者が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	保護者による前期学校評価アンケートで肯定的評価 92% →評価【B】	C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。
					昨年度、教育ウィーク、進路説明会等の保護者の来校者数はのべ550名であった。	【努力指標】 新型コロナウイルス感染対策を講じながら、教育ウィーク、進路説明会等の来校者数を増やす。	教育ウィーク、進路説明会等での保護者の来校のべ人数が A 800名以上 B 600名以上 C 400名以上 D 400名未満	年度末の実績で評価	C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。
		②	各分掌や各学年、各教科と連携し、生徒の読書活動を促進する。	総務課	昨年度2月末までの図書館の貸出冊数は、生徒1人当たり3.1冊で、一昨年度より減少した。	【努力指標】 生徒の読書活動を促進する。	図書館の貸出冊数生徒1人あたり1月末まで A 4冊以上 B 3冊以上 C 2冊以上 D 2冊未満	4～7月集計 1.0冊 →評価【D】	C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。
		③	学年・委員会・部活動による地域貢献や学校行事のサポートを行い、ボランティアへの関心を高める。	生徒課	ボランティア委員が金沢マラソンのボランティアに参加している。また、学校行事の受付や案内係等を有志の部活動で行っている。	【努力指標】 生徒のボランティアへの関心を促進する。	ボランティア活動に参加した学年・委員会・部活動の人数が A 150人以上 B 100人以上 C 50人以上 D 50人未満	年度末の実績で評価	C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。
5	「教職員の多忙化改善に向けた取組方針」を踏まえ、業務の平準化を通じ教職員の時間外勤務縮減を推進し、また、ワークライフバランスを意識した業務改善につながる学校マネジメントを推進していく。	①	ワークライフバランスを常に意識し、校務の効率化に向けて具体的な取組を実践する。	教頭	昨年度の教職員へのアンケート結果は71%であった。R3年度の65%から6ポイント向上した。R3年度はR2年度から10ポイント向上していた。要因として休みを自由に取得することや働き方改革への理解が少しずつ浸透していると思われる。また、生徒が主体的に学ぶことを推進し、デジタルコンテンツを利用することで教師側の軽減だけでなく生徒の学力向上へもつながった。時間外勤務の平均時間や月80時間超の人数は減少しており、多忙化改善に向けた教職員の意識は向上し、工夫がなされている。感染症対策を講じた上で、教育の質を落とさず、時間外勤務を縮減させる具体的な取組を実践する必要がある。	【努力指標】 具体的な取組を提案・実践し、教育の質を落とさずに時間外勤務を減少させた教職員の割合を増加させる。	具体的な取組を実践し、時間外勤務が減少した教職員の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満	教職員による前期学校評価アンケートで肯定的評価 68% →評価【B】	C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。